

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	有限会社一九二八	
施 設 名	アートコンプレックス 1928	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内定額(総額)	5, 3 8 0	(千円)
公演事業	5, 3 8 0	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当劇場は「アートを切り口に、社会に新しい価値を提案する」ことを理念に、“独創性ある優れた作品の創出”、“観劇機会の拡充と観劇層の拡大”、“収入が安定しない実演家やスタッフの雇用創出と育成”に向けて、民間独自の強みを生かした手法で、ロングランシステムの構築に取り組んだ。本事業「舞踏ロングラン」は、8年間で3000回の上演を行う「ギア-GEAR-」と共に実施するロングラン第二弾として企画。ブロードウェイや、ウエストエンドのように舞台芸術という観光資源を提供し、運営の安定化を図りながら、舞台芸術の創造拠点形成を目指すもので、今年度においても下記の通り大きな成果が得られた。

■ロングランを通して新作創作とブラッシュアップ

今年度も7ヶ月に渡り、舞踏4演目を開催(165公演)。助成支援により、新作の創作に取り組み、公演毎に新演出や新振付の実践、フィードバックを行うことでブラッシュアップができた。

■長期スパンでの広報

舞踏事業は口コミやリピーターでの来場が全体の8割であることから、長期公演はGoogleやSNSを活用したインターネット広告の効果が高く、実施期間は適切であったと考える。

■国内外への発信

外国人から舞踏への関心が高いにも関わらず、観劇機会が少ない現状である。専用劇場として公演機会を拡充することで、多くの訪日外国人に観てもらえることができた。



助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

舞踏は日本で1950年代末に起こった前衛的舞踊であり、日本の現代芸術の大きな柱の一つである。日本人の身体性と精神性が表出したその独自のスタイルは、それまでのダンス美学の常識を根底から覆す新たな挑戦であり、後のダンス界に大きな衝撃と影響を与えることとなった。海外においては特に高く評価されている舞踏だが、一方で、日本国内での公演活動は、主に舞踏家自身により自主公演として行われてきたため、実際に観る機会が極めて少なく、日本の社会において認知度が決して高いといえない。

また舞踏に関する情報を得ること、「舞踏の本場で舞踏を鑑賞したい」という希望に応えることも、できにくい環境となっている。創始者である土方巽、大野一雄の直弟子である第一世代の他界、高齢化が進む今、継承と発展に向けて、拠点を持って継続的に取り組むことは、先細りが危惧される舞踏界には必要不可欠と考える。

その中で当劇場では、平成28年7月より舞踏館プロジェクトとして企画を立ち上げ、日本国内における舞踏の拠点形成に取り組み、鑑賞機会の創出に努めてきた。今回、文化庁からの助成により継続してロングランが実現できた結果、今年は通算1000公演間近となった。ロングランの効果により認知度が高まり、訪日外国人の比率が6割から8割へと増加した。

ロングランの取り組みは、舞踏を継承していくにあたり大きな文化的意義があり、また観光立国を目指す日本において、社会的、経済的意義があったと考える。



(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

舞踏ロングランの初年度は週1日(1演目・2公演)を実施していたが、4年目となる今年には週3日(3演目・6公演、4演目)を実施する形態となった。新人による新作の上演ならびに、目標である公演数を達成することができた。

【公演の実績】

公演日程：令和元年7月2日～令和2年1月30日／公演回数165公演／上演作品数：4演目

【入場者数】930名 (目標入場者数：1,236名)

【入場率】70.4% (目標より13.3ポイント減)

【訪日外国人の数】732名

【訪日外国人の割合】73.27%(1昨年より6.8ポイントDOWN) ※世界41カ国から来場

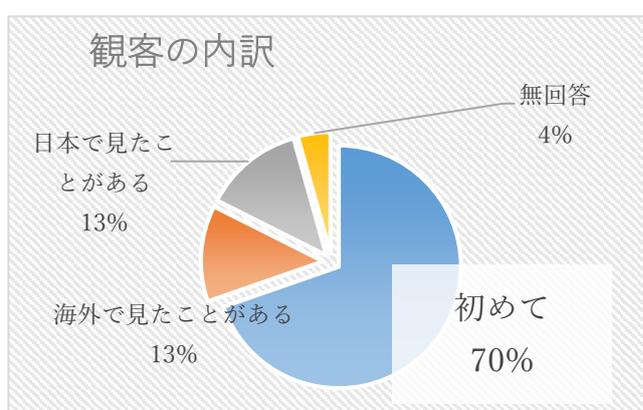
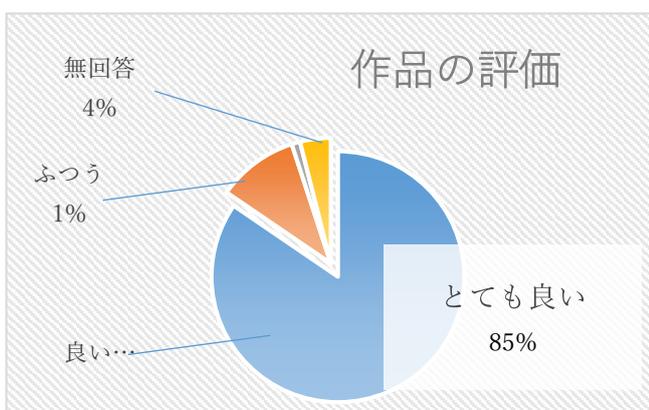
【収益率】29%

【アンケートから】

回収総数：742名 ※アンケート回収率：79.7%

評価：とても良い：85% / 良い10% / 普通1% / 回答なし4%

- ・「舞踏を初めて見た人」は、全体の70%であった。
このことから、コアな舞踏ファンへの機会提供に留まらず、観客層拡大についても貢献したと考える。
- ・チラシや新聞・ポスターで来場した人が全体の5%であった。
口コミ、知り合いの紹介、リピーター、Tripadvisorなど、ロングランによる長期間の広報で来場した観客は全体の約8割であった。
- ・4演目あったことで一度観た観客が別演目を見るため再来場するケースが多くリピーターは13.7%であった。
- ・国内でも北海道から九州まで全国多方面より来場があった。(88%は京都以外からの来場)
- ・来場理由に「小さな空間で見たかった」という回答が複数あった。
- ・世界40カ国から来場があった。(別紙に来場国一覧を掲載)



(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか

【事業期間】

1日2公演で週3日間の公演を実施。リピーターが13.7%を占めているが、一週間に複数演目を上演したことによる効果であったと考えられる。長期間実施していることにより、一度帰国した方が再来日して観にくるケースや、海外での口コミが広がり、知り合いから聞いて来場した訪日外国人も多く、ロングランの形態に、より期待が持てた。

上演4作品



今紹子「秘色」

由良部正美「黄泉の花」

袋坂ヤスオ
「反重力子 花のかんばせ」

佐藤野乃子「はざま」

【事業費】

◎チケット価格：一般 3,800 円(7-9 月公演)・一般 4,200 円(10 月以降)／学生 3,000 円

これまで海外のお客様にヒヤリングしたところ「料金設定が非常に安い」という意見が多くあったため、10 月公演より一般価格を 500 円値上げした。他の舞踏公演と比較して、濃密な小空間で舞踏を間近で見れるという優位性から、大きな不満は出なかった。

国内で舞踏がまだまだ知られていないことから、認知度向上や観客層拡大を優先するため、値上げは 500 円 UP に留めた。この理由により収益率が低い状況である。

◎文芸費

ステージ数を重ね、観客との対話、アンケートからの意見により、より優れた作品への演出を変えていくスタイルをとっているため、作品を成熟させるために文芸費を大きく設定した。

◎舞台費

ランニングコストを限りなく抑えるためには人件費を削減することをテーマに事業に取り組んだ。特にオペレートに関わる照明・音響スタッフ費を縮小させるため、1 人で操作できるオペレーションシステムを確立したことが大きな成果となった。

◎企画制作料・アルバイト・会場整理員について：

舞台スタッフが照明・音響・舞台監督を兼任し、さらに制作を兼ねることで大幅に予算を削減した。WEB サイトなど多言語対応が進んだことで、前年度まで配置していた通訳兼任の会場整理員を削減できた。

◎広告宣伝費

アンケートやヒヤリングから、多くの観客がインターネット(各種 SNS、公式 HP、旅行口コミサイト等)から情報を得ていることが分かったため Google や Facebook 等の広告に集中し、印刷費を削減した。ロングランでは、口コミや知り合いからの紹介にて来場される方も多く、経費削減につながったと思われる。(多くの公演は短期間であるため評判が広がった頃には公演が終了しているが、長期公演ではそのフォローができるほか、リピーターを受けられる利点がある)

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

韓国では、「NANTA」を初め、多くのノンバーバルパフォーマンスの劇場公演が毎日のように行われており、外国人観光客の必須の観光コースとなっている。翻って日本においては、日本語を理解できない海外からの観光客が気軽に観られる作品が極めて少なく、専用劇場としてガイドブックに掲載されるような公演はほぼない。国内外を問わず、斬新で魅力ある観光コンテンツの醸成が急務とされる現状にあって、我々は子どもから大人まで年齢、国籍を問わず、そしていつでも気軽に、一流のパフォーマンスが楽しめる環境を整備するため、ロングランコンテンツを増やし、劇場の集積地を形成したいと考えている。ロングラン事業の継続は、拠点整備に不可欠であり、キャパシティ 10 名以下の劇場だからこそ、事業運営、広報、票券管理、新しいオペレーションシステムの開発など、様々な取り組みができたと思われる。

本事業では『ギア』のプロデューサーである小原が全体の指揮を執り、関西で活躍する 4 人の舞踏家の協力を得て実現した。ギアで培われたロングランの手法を舞踏館で生かすことができた他、優れた舞踏家の尽力により非常に満足度の高い公演を提供することができた。

◎プロデューサー：小原啓渡

照明技術者として宝塚歌劇や劇団四季、歌舞伎など、幅広い現場で実践を積む。1992 年からコンテンポラリーダンスの母・スーザン・バージュのテクニカルディレクターとして 7 年間パリを中心に活動。その後、京都にて近代建築を改装した劇場「ART COMPLEX 1928」を立ち上げ、プロデューサーに転向。「アートの複合(コンプレックス)」をテーマに、劇場プロデュースの他、文化支援ファンドの設立や造船所跡地をアートスペース「クリエイティブセンター大阪」に再生するなど、芸術環境の整備に関わる活動を続ける。

◎舞踏家について：

今貂子：演出・振付・出演※：「秘色(ひそく)」※新演出・振付
白虎社出身の舞踏家。日本の芸能の源流にみられる「たまふり(命の活性化)の力」に支えられたアバンギャルドな舞踏の探求を通じ、独自の境地を開拓。京都舞踏館を拠点に、舞踏の継承と発展に挑んでいる。日本を代表する舞踏家の一人。



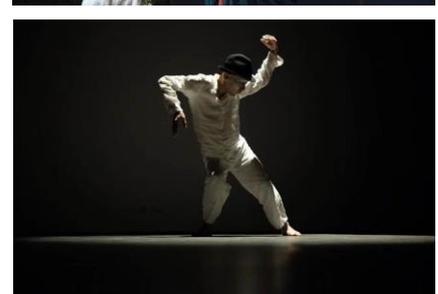
由良部正美：演出・振付・出演※「黄泉の花(よみのはな)」

1982 年、舞踏グループ東方夜總會(後の白虎社)を退会後、ソロダンサー、振付け・演出家として活動を始める。多くのダンス作品、コラボレーション作品を発表。2000 年ヨーロッパ最大といわれるリヨン・ビエンナーレ・ダンスフェスティバルに招待されるなど海外での活躍も多い。舞踏館での公演をきっかけに香港のブリティッシュカウンシルより招聘される。



袋坂ヤスオ：演出・振付・出演※「反重力子・花のかんばせ」

舞踏家。1971 年北海道に生まれる。18 歳で京都に出て能楽を学び、1996 年より舞台の道に入る。以来、様々な音楽家との即興的なコラボレーションを重ねるなどコンテンポラリーな作品を創作している。自作の能面を使用した独特の表現法を用いている。



佐藤野乃子「はざま」

京都を拠点に活動する舞踏家・今貂子主宰の舞踏カンパニー「倚羅座」で、制作アシスタントとして活動に参加し、2012 年初夏、制作兼、舞踏手としてデビューする。以降、倚羅座舞踏公演の全作品に出演。2018 年倚羅座を退団。2019 年、KYOTO 舞踏館にて新作を発表。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【世界的な観光都市・京都の課題】

アメリカの大手旅行誌「トラベル+レジャー」が発表する世界の人気観光都市ランキングで、京都は平成26年、平成27年に2年連続で1位となった。この結果、国内の観光客に限らず、訪日外国人も多く集まる街へと変化した。しかしながらその後、順位が下がっているのが現状である。京都市産業観光局が発表した平成30年度の調査結果を分析すると、京都の残念な場所という指摘には、「夜の娯楽が少ない」、「雨で行く場所がなかった」などの意見があり、こうしたニーズに応える観光コンテンツを、継続的に提供していく必要があった。

◎訪日外国人に求められるコンテンツ

- ⇒ 日本でしか楽しめないもの＝日本オリジナル作品
- ⇒ 日本語がわからなくても容易に楽しめるもの
例) ノンバーバル(非言語)、ダンス、音楽
- ⇒ 短い滞在期間中、スケジュール的に無理がないもの
- ⇒ 主な観光スポットが閉まる夜、雨の日でも楽しめる

◎国内旅行者に求められるコンテンツ

- ⇒ 所得、年齢に関係なく、比較的安価な料金設定
 - ⇒ 高いクオリティのコンテンツであるもの
 - ⇒ 何度訪れても楽しいもの
 - ⇒ ファミリー、友人同士、一人でも楽しいもの
- ※観光地であるからこそ、リピーターからは
新しい観光コンテンツが求められている！

劇場は近代建築が立ち並ぶ三条通沿いにある。電車、バスからのアクセスも良く、京都最先端のファッションスポットとして地元住民に親しまれ、京都の中心地という立地で、多くの観光客が行き交う。本事業では、その立地の強みとニーズを生かし、「いつでも舞台が楽しめる環境づくり」に取り組んだ。

【近隣の様子】



京都文化博物館別館 中京郵便局

1928ビル(旧毎日新聞社京都支局ビル)

一年あたりの公演回数



三条通添いの2つの劇場で、ギアと舞踏のロングランを実施。休演日は曜日を分けて設定しているため、観光客がいつでも舞台が観劇できる環境が整った。

※新型コロナウイルスの影響により、現在休演中

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

・ 舞踏専用劇場として認知が高まった。

長期公演により京都市内の宿泊施設やツアーガイドからの認知度が高まり、観光関係者経由の予約が増加した。（※具体例：アマンホテルグループのコンシェルジュより問い合わせがあり、世界的に有名なハリウッドスターの貸切り公演が実施された。）Tripadvisor や Google、Airbnb での継続した広報も、口コミ効果と相乗する形で効果があり、個人旅行者に向けた PR も実施できた。

・ 安定的な収益基盤確保への取り組みができた。

弊社では助成金は新規事業の立ち上げ、事業内で挑戦、クオリティアップに充当すると位置付けており、「ギア-GEAR-」の事業が4年間での支援を経て助成金から自立したように、舞踏公演についても、将来的には経営的にも自立できる取り組みを入れることで助成金に頼らない運営を目指している。本事業において、365度カメラを活用した映像撮影や、将来のVRライブビューイングに向けた実験もあわせて実施することができ、ノウハウ蓄積の面で大きな成果が得られた。今後、次世代高速通信5Gが展開していく中で、世界中に舞踏を紹介していきたいと考えている。舞踏事業では、訪日外国人が観客の大半であったことから、現在の新型コロナウイルスの影響で大きな転換を求められているが、これまでの観客からの評価により日本の舞踏の価値が高いことは証明されているため、新たな運営形態を模索していきたい。

・ 世界中に舞踏を紹介できた。

アンケート結果では、世界40カ国から来場があった。ロングランにより観光コンテンツとしても定着できたことで、以前は舞台やダンスに関心が高い層にしか届かなかった情報が、観光客に広がったと考えられる。

【舞踏館】来場国について（アンケート結果より）

USA	167	カナダ	27	ハンガリー	2
アイルランド	6	ギリシア	0	フィリピン	2
アルゼンチン	1	コスタリカ	2	フィンランド	9
イギリス	23	コロンビア	2	プエルトリコ	1
イスラエル	12	シンガポール	6	ブラジル	21
イタリア	22	スイス	10	フランス	28
イングランド	1	スコットランド	3	ベルギー	3
インド	5	スペイン	15	ポーランド	1
インドネシア	2	スロバキア	1	メキシコ	8
ウルグアイ	2	チリ	6	ルーマニア	2
オーストラリア	20	デンマーク	13	ルワンダ	2
オーストリア	9	ドイツ	40	ロシア	4
オランダ	9	ニュージーランド	3	ヨーロッパ	1
カタロニア	1	ノルウェー	9		